



4 旭東小学校における、実際の取組の様子をお話します。



わたしたちは、「児童の学力向上を目指した授業改善」を目的に、ノート指導を中心にした、以下の5本の柱を立てました。

- 1 ノート指導の工夫と改善
- 2 統計教育を重視した算数指導
- 3 協働的な学びへの取組
- 4 現職教育の交流
- 5 家庭教育の推進と充実

この柱ごとにお話します。

1 ノート指導の工夫と改善

- ① 学習課題を児童のものにするために、毎時間、必ず授業の初めに**本時のめあてを板書**して、ノートに視写させる。
 - ② 学び合いの充実を図るために、**児童の思考過程が見える**、整理された板書とノートにする。
 - ③ 学びの実感を児童がもてるように、授業のまとめとして**振り返り**をノートに書かせる。
- ①では、各教室にめあてを記入するための**ホワイトボード**を用意しました。これを黒板に掲示することで、児童も授業の途中で何度もめあてに戻ることができ、目標に到達できているかを考えながら取り組むことができました。また、教員は**授業の終わりに、児童にどんな姿になってほしいか**、具体的に思い描いて本時のめあてを考えることができるようになってきました。
- ②では、国語の主として「活用」に関する課題について、聞き取りや自分の考えをまとめる力が弱い傾向が見られていましたが、ノートに書くことで、整理できるだけでなく、自信をもって自分の考えを発表できるようになってきました。学習過程において、立式の理由を説明し合う機会を設けたり、一人読みからペアや小グループ内での意見交換に発展させたりするなど、**考えを比べたり、表現の工夫を評価し合ったりする**姿も見られ、言語活動の充実した授業になりました。板書計画のため、教材研究の時間も増え、教員の授業力向上にもつながりました。
- ③では、感想しか書けなかった児童が、**めあてに沿って振り返ったり、友達との学び合いに触れた振り返り**を書いたりできるようになってきたところです。何より、学習の方法や流れが見通せるようになり、学習に対して自信がもてる児童が増えました。今後も継続した取組が欠かせません。

めあてと振り返りを重視

習得と活用
(学びを生活に生かす)

2 統計教育を重視した算数指導

わたしたちは、知多市の児童が抱える、算数の主として「活用」に関する課題に向けた取組のため、**統計教育**を重視し、知識や情報を生活に生かす児童の育成を目指すことにしました。以下の3点を授業プランに取り込みました。

- ① 児童の興味関心が高まるように、**生活に密着した挑戦的課題**を設定する。
- ② 単元構成は**習得と活用**の2段階とする。
- ③ 児童の発表場面では、**根拠を示した理由付け**を意識させる。

実践例として、3年算数「表とグラフ」を紹介します。習得では、学級内で大放課の過ごし方について、調査を行いました。アンケート調査したことをグラフや表にしたり、読み取ったりして、算数の基礎的知識の定着を図りました。また、グラフや表を使って根拠を明確にする活動の中で、比較、関連、統合を体験させました。

次に、活用では、「旭東小の大放課を調査せよ」というめあてを設定し、全員で協力して全校にアンケート調査を実施しました。調査結果をまとめた表とグラフを基に、新たな課題の解決を学級で話し合い、児童議会に提案することができました。成果は、以下の3点です。

- ① **児童の生活に関わる学習課題を設定**することで、学校のために自分も役立ちたいと意欲的に調査できました。更に調べたいという気持ちを揺さぶることで、自らの力で新たな課題を設定することもできました。
- ② 単元構成を**習得と活用**の2段階としたことで、児童は学習したことを生活に生かした実感を振り返りに書き、基礎・基本の定着を図ることができました。
- ③ **自分の考えを表や資料と関連させたり、友達との考えと比較させたり**することで、生活をよりよくする答えを見つけ出し、学び合いながら解決していく姿を見ることができました。

「児童の学力向上を目指した授業改善」

— ノート指導を中心にした授業展開の工夫を通して

授業力の向上

国立教育政策研究

所は「21世紀型能力」を提唱しました。これは「生きる力としての知・徳・体を構成する資質・能力から、教科・領域を横断的に学習することが求められる能力を資質・能力として抽出し、これまで日本の学校教育が培ってきた資質・能力を踏まえ、それらを基礎、思考、実践の観点で再構成した日本型資質・能力の枠組み」としています。その責務を果たすには**教員の授業力向上が必須**であると考え、以下の実践を行いました。

- ① 市教育研究会との連携を踏まえた授業研究会の実施
校外の教育資源を活用して教員の授業力を向上させるため、知多市教育研究会との連携を図りました。算数・数学研究部会及び統計教育研究部会、若手教員授業研究会と連携して、愛知教育大学の青山和裕氏から指導を受けました。連携して教育資源を有効に活用できたことはもちろん、様々な角度から研究授業を精査でき、研修の輪を重ねました。
- ② 市内教員研修会の実施と他校現職教育との交流
市内教員の授業力向上を図るため、愛知教育大学の青山和裕氏による講演会や、授業について指導を受ける機会を全4回設けました。内容は、「児童を中心とした授業を実現する指導法」、「実際に授業を参観しての指導」、「ノート指導と統計の指導」、「今後の統計指導における重要点について」で、どれも示唆に富んだ内容でした。また、市内他校の現職部会とも相互に交流し、他校が招いた講師の先生からも指導を受ける機会がもてました。今後も教育資源を有効に活用して研修の輪を広げ、教員の授業力向上に努めます。

4 現職教育の交流

考えを伝え合い
深め合う

3 協働的な学びへの取組

児童が友達とともに解決することをめあてにした協働的な学びを取り入れました。話し合いを通して、**自分の考えを再構築したり、新しい知識をつくり出したり**することで、めあてに対しての建設的な意見をみんなでつくることを目的として、取り組みました。また、共通した話し合い活動の流れを次の①～④の順としました。

- ① 話し合いのめあて（目的）をつかむ。
 - ② キーワードを見付け、自分の言葉で考えを説明する。
 - ③ 他者の考えを自分と比較しながら聞き、自分の考えをよくする。
 - ④ キーワードを基に考えを深め合い、新しい考えや知識を導き出す。
- 実践例として、3年国語「ちいちゃんのかげおくり」の実践を紹介します。初発の感想を共有する時間に「第1場面と第4場面のかげおくりはどちらも楽しいのか。」という児童の中に浮かんだ疑問を、次時の学習のめあてとしました。

似ている2つの場面の文章表現を比較するために同じ点、違う点を色分けさせたことにより、登場人物の状況の変化を理解することができました。細やかな表現の違いを基に、それぞれの場面のかげおくりの名前を付け、全体で意見交流を行いました。お互いの意見のよさや違いを比べて関わらせることで、自分の意見を広げ、深め、よりよいものにしていました。第1場面のかげおくりは「楽しく、わいわいとした、家族全員のかげおくり」、第4場面は「寂しい、しゅんとした、ひとりぼっちのかげおくり」と名付け、最後には現実と幻覚の違いまで読み取ることができました。

5 家庭教育の推進と充実

自己有用感を高める

わたしたちは、**子どもへの関心を高める**家庭教育の推進と充実を図ることにしました。保護者がわが子のよさに気づき、**褒め、認める**ことで児童の自己有用感を高めるため、**ノートをつールと**することにしました。そこで、児童のやる気を育て、学力向上につなげるため、国語と算数の授業のノートを、家庭で保護者に見ていただく試みを始めました。具体的な方法は以下のとおりです。

- ① 保護者にノートを見てもらうときに配慮したこと
 - ・教科ノートを基に、児童に学習内容を**保護者へ伝えさせ**ました。
 - ・ノート点検をこまめに行い、**朱書き**を入れました。
 - ・朱書きを、**保護者のコメントの参考**になるようにしました。
 - ・よいノートの使い方を示した「**友だちのノート**」を**教室に掲示**し、授業参観等で保護者に見てもらう機会をつくり、どのようにコメントを書いてほしいかを示しました。
- ② 実際に保護者がノートに書いたコメント例 (P.4にも有)

がんばってノートをつくっていると思いました。登場人物のそれぞれの気持ちをよく考えて読むことで物語の世界に引き込まれていくのでしょう。最後にどんな感想が残るのかな。

児童がノートを見せながらキーワードを使って保護者に学びを話すことは、学習内容の定着につながると考えています。保護者のコメントを授業で紹介すると、すぐに学習に生かす児童が出てきました。教師の朱書きを見た保護者がアドバイスをして、家庭学習に生かす児童も出てきました。ノートの使い方や学習のよいところを具体的に褒めてもらうことで、学校での学習はもちろん、家庭での学習習慣を身に付ける勇気付けや、励ましにつながりました。**朱書きでコメントの書き方を示したことで、児童の実態に合った励ましや称賛のコメントが保護者から多くなり、児童は、褒められることで自信が生まれ、学力向上につながってきたと感じています。**